

ドイツ諸ラント史辞典 —中世から現在までのドイツ領邦と帝国直属家門— ③

翻訳: 鎌 野 多美子*

Historisches Lexikon der deutschen Länder — Die deutschen Territorien vom Mittelalter bis zur Gegenwart —

Tamiko Kamano *

Baar バール (方伯領)

8世紀以降文書に述べられているバールは、シュヴァルツヴァルトとシュヴェービシュ・アルプとのあいだのドナウ川上流河畔の一地方である。早くも6世紀には、今日のバール地方を超えて東部、ブッセン山を越えたところまで伸び、ベルトルデ家の一門に占有されていた（例えば763年にペラトルテスパラ、それに加えてフォルヒョルツスパールあるいはアルプインスパール、ツーク・バール、譲渡？）バールと呼ばれていた支配地域があった。その中核つまり今日のバールは、973年にツェーリングン家のものとなった。ツェーリングンの諸公が1218年に死滅した後、1264年に、方伯領バールに、方伯として自由貴族のコンラート・フォン・ヴァルテンベルクが出現した。その一族は1302年までバール方伯位を有していた。1304年ないし1307年以降、方伯領バールの方伯の地位は、フルステンベルクの諸伯ないし諸侯と、ツェーリングン諸公の自由地の遺産相続と結びついていた。この地位の主な中身は、14世紀末から裏づけされているラント裁判所の所有であったといえる。1318年にフルステンベルク諸伯はヴァルテンベルクの土地も相続したが、1305年にプロインリンゲンとヴィリンゲンをハープスブルクに失った。1403年にフルステンベルクの方伯領はバールと呼ばれ、1500年には方伯領フルステンベルクとも呼ばれた。1488年にドーナウエッシンゲン、1520年ないし1553年にメーリンゲン、1537年にブルームベルク、そして1620年にはヒュフィンゲンがフルステンベルクにわたった。1744年までに方伯領バールはフルステンベルク家の様々な系の下で幾度も分割された。1806年に10平方マイルの大きさの方伯領バールはフルステンベルクとともにバーデン、そしてその結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴュルテンベルク州にきた。

Babenberger バーベンベルク家 (一門)

バーベンベルク家の先祖は、11世紀中頃に城塞バーベンベルク（バンベルク）の名称に因んでそう名乗った、東フランケン（フォルクスフェルト）と一時的にはソルビアのマルクに土地をもっていた貴族一門である。その一門は、一門出自の主要人物の名前が原因で

*かまの たみこ：大阪国際大学現代社会学部教授〈2009.10.1受理〉

ポッポー家と呼ばれ（ポッポー 1 世、819年 -840年〔グラープフェルト〕、ポッポー 2 世、880年 -892年）、フランケンでの覇権を巡る勢力争いにおいてライン・フランケン地方のコンラート家に906年に敗れ、945年に表示されているのが最後である。この一門の祖先に数えられるのは、ルーペルティナー家であると思われる。リウドルフィング家およびヘンネベルク家と親戚であると思われる、またグラープフェルトにある土地と、一門の伝統名の継承は、バーベンベルク家の分家であることを物語っている。最初のバーベンベルク家の系として、九七六年にドナウ河畔（オストマルク）のバイエルン辺境の辺境伯マルチオ・リウトパルドゥスが文書で言及されている。この名前は、10世紀のバイエルン公の一門であることを仄めかしている。彼の弟ベルトルト（980年没）は王代理として、バンベルクを含むバイエルン地方のノルトガウを管理したが、彼によって創設されたシュヴァインフルトの諸伯ないし辺境諸伯の系は、1057年にシュヴァーベン^{オーストリア}の公であったオットー・フォン・シュヴァインフルトでもって滅亡した。その時、諸土地は様々な一族（マイセンの辺境諸伯、メーレンのブラティスラフ、アンデックス、ハーブスベルク・カスツル、ポータンシュタイン）にわたった。リウトポルトス・マルクはエンスとトゥルンとの間のドナウ川兩岸に拡張し、まもなく1000年以後ライタまで拡張した。とくにザリエル家のアグネスと結婚したレオポルト 3 世の下で、バーベンベルク家の支配権は、豊かな王領とともに拡張し続けた。1156年にバーベンベルク家は、レオポルト 4 世（バイエルン公、在位1139年 -1156年）が異母兄弟の王コンラート 3 世から委託されたバイエルン公領を失った代償として、小特許状いわゆるプリヴィレギウム・ミヌスによってマルク（オストマルク、エスターライヒ^{オーストリア}辺境伯領）を地域的公領へ上昇してもらった。その一門は、ハインリヒ獅子公の失脚で、1180年にハーゼルグラープベンとグローセン・ミュールとの間の領土を手に入れた。トラウングアの部分も手に入れたと思われる。また、1186年の相続契約によりオーバーエスターライヒの部分を獲得した後、1192年に公領シュタイアーマルクを獲得した。1229年にはクラインにあるアンデックスの諸土地を獲得した。1246年に男系が絶えたその一門の遺産を、空位時期の混乱（の中でエスターライヒ^{オーストリア}はマルガレーテ・フォン・バーベンベルクを経由してベーメン王オタカル 2 世にわたっていた）後、1282年に、ハーブスブルクの諸伯が相続した。

Babenhausen バーベンハウゼン（領地、帝国諸侯領）

1237年にテュービンゲン宮中伯の城塞として命名されたバーベンハウゼンの周辺に、イルラータッセン近郊のギュンツ河畔に、領地バーベンハウゼンは存在した。それは、自らの都合でテュービンゲン宮中伯を継承したヴェルテンベルク諸伯のレーンとして、1378年以降、レヒベルクの諸君主の手中にあった。かれらは1471年に領地バーベンハウゼンにおける流血裁判権を手に入れた。バーベンハウゼンは1537年ないし1538年にアントン・フッガーによる購入により、ヴェルテンベルク^{レーンズホーハイム}の封土統治権を払拭したフッガー家にわたった。1803年にバーベンハウゼンは帝国侯領になり、1806年に380平方キロメートルの広さと約1万1000人の住民と共にバイエルンにわたった。

Babenhausen バーベンハウゼン (帝国騎士)

16世紀に、バーベンハウゼン家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Babonen バーボーネン (一門)

バーボーネン (パーボーネン、パーポーネン) 家は10世紀末以降知られている、出自についてははっきりしない、レーゲンスブルク地域 (シュテフリングの諸方伯、レーゲンスブルクの諸城伯) に土地を所有した貴族一門 (バーボ、1001年頃没) であった。後に、かれらはバイエリッシャー・ヴァルトとアルトミュール地域の土地を手に入れた。1175年頃に生まれた両系の滅亡後1185年ないし1196年に、ヴィッテルスバッハの諸伯は、アーデルハイド・フォン・ヴィッテルスバッハの、バーボーネン・オットー (1175年没) との結婚に基づいて発生した相続請求権を押し通した。

Bach バッハ (帝国騎士)

16世紀中頃までバッハ家はシュタイガーヴァルト・カントン、17世紀末までフランケン騎士クライスのバウナッハ・カントンに属していた。

Bach バッハ

参照 シェレンベルク・ツォー・バッハ

Bacharat バッヒャラート (帝国騎士)

16世紀初頭、バッヒャラート家はフランケン地方の帝国騎士に属していたと思われる。

Bachenau バッヒェナウ (帝国村)

ヴィンプフェン近郊のヤクスト河畔のバッヒェナウは、1360年の一文書の中で登場している。その公文書の中で、カール4世は、ブルクハルト・シュトゥルムフェーダーの義理の娘 (息子の妻) エリーザベトに、シュトゥルムフェーダーに担保として与えられたその村を、帝国によって再び請け出されるまで、受領していることを認めた。参照 バーデン・ヴェルテンベルク。

Bachgouwe バッハゴウヴェ

Bächingen ベヒンゲン (帝国騎士領地)

ベヒンゲンはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していたが、1806年にバイエルンにわたった。

Bachstein バッハシュタイン (帝国騎士)

16世紀初期に、バッハシュタイン家はフランケン地方の帝国騎士に属していたと思われ

る。

Backmeister バックマイスター (帝国騎士)

ヨハン・フォン・バックマイスターは1708年から1711年まで、^{ベルンナリスト}奉公人としてシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンの構成員であった。

Bad Mergentheim バード・メルгентハイム

参照メルгентハイム

Badanachgau バーダナハガウ、Badanacgeuuni バーダナゴウイ (Bathiniegowe バシニクゴヴェ、Badingowe バーダインゴヴェ、タウバー川の北部のガウ)

Baden バーデン (伯領)

アールガウのバーデンは既にローマ時代に温泉 (アクアエ・ヘルヴェチカエ) 地だった。1291年にハプスブルクにわたっていたその村落は、^{オルト}1415年にスイス盟約団体に征服され、伯領バーデンのラント代官の居所となった。1712年にバーデンはチューリヒ、ベルン、グラールスにわたった。1798年から1803年まで、フライアムトを含むその嘗ての伯領は、バーデン・カントンを形成した。そのカントンはまもなくアールガウ・カントンにわたった。

Baden バーデン (辺境伯領、選帝侯領、大公領、ラント、ラントの一部)

オースタールにある古代ローマ人のアクアエ・アウレリアエ (220年ないし221年にキヴィタス・アウレリア・アクエンジス) は、3世紀にアレマン人に破壊された。987年になってはじめて、部族公領シュヴァーベンに所属するバーデンが出現した。バーデン辺境伯の一族は、ツェーリングン公ベルトルト1世の息子であり、ザリエル家に近い親戚であるシュヴァーベン公ヘルマン4世の孫である辺境伯ヘルマン (1040年-1074年) でもって知られている。ノルトシュヴァルツヴァルトの諸土地は、確かに彼がカルヴ諸伯の遺産として手に入れたものである。その辺境伯称号は、ヘルマン1世が1072年より以前に辺境伯として出現する公領ケルンテンのマルク・ヴェローナに由来するものと思われる。辺境伯ヘルマン1世が結婚して手に入れた城塞バーデン (バーデン-バーデン) の名称に因んで、同名の息子ヘルマン2世 (1130年没) は、1112年に初めて、ヘルマン辺境伯称号を継続して、そう名乗った。かれはブライスガウとオルテナウで諸伯領を所有していた。そして、結婚によってバックナング周辺の土地を獲得した (1100年頃)。息子ヘルマン3世は王コンラート3世の娘と結婚していたと思われる、そして1153年に昔の王領ベジヒハイムを手に入れた。ヘルマン5世は1219年にプフォルツハイムを相続し、ドゥアラッハとエットリンゲン^{プファンドシャフト}を、同様にラウフェン、ジンスハイム、エッピンゲンに対する担保権を獲得した。シュタウフェン家滅亡により、今日のミッテルバーデンにいたその一族は、エルザスのヴァイセンブルク修道院の^{レーンズグート}世襲封土に起因するシュタウフェン家の地位に就いた。1190年にバーデン (オッフエンブルク周辺のオルテナウを含む) の辺境伯の本来から分化したハッハベ

ルク（ホッホベルク・イム・ブライスガウ）辺境伯の系の土地と、1297年に形成された傍系ザウゼンベルクの土地は、1415年に購入（ハッハベルク）により、もしくは1503年に相続権（ザウゼンベルク）により、再び本家に戻ってきた。本家は、それに加えて、14世紀と15世紀に新たに土地を手に入れた（シュボンハイム、ラール・ウント・マールベルク〔ラール・マールベルク〕の半分、1387年にエルブシュタイン伯領の半分）、しかしシュトットガルトの周辺地域（他に1504年ないし1595年にベジヒハイム、ムンデルスハイム）においては、ヴェルテンベルクの諸伯に譲歩しなければならなかったもので、その結果、バーデンはほとんど、ハープスブルクとヴェルテンベルクよりも劣っているオーバーラインの支配領域となった。1515年にバーデンのベルンハルト3世はルクセンブルクとシュボンハイムの土地（バーデン＝バーデン）、エルンストはブライスガウの土地（ハッハベルクないしホッホベルク、ザウゼンベルク、レッテルン、バーデンヴァイラー、いわゆるマルクグレーフラント〔バーデン＝ドゥアラッハ〕）、そしてフィリップは残りの土地をもらった。それに加えて、1535年に、フィリップの持ち分から、都市と城バーデン、アルプ川の南部に位置する領土、領地バインハイムと、ヘレンアルプとフラウエンアルプに対する代官職が、ベルンハルト3世の手に入った。同じくプフォルツハイム、ドゥアラッハ、アルテンシュタイク、リーベンツェル、アルプの北に位置する領土がエルンストの手に入ったので、（1515年ないし1535年から1771年まで）上部辺境伯領バーデン＝バーデンと下部辺境伯領バーデン＝ドゥアラッハ（プフォルツハイム居館、1724年以降カールスルーエ居館）が併存した。バーデン＝ドゥアラッハは1556年に、バーデン＝バーデンは1555年より後にプロテスタント化した（後に再びカトリック化）。1594年から1622年まで、バーデン＝ドゥアラッハはバーデン＝バーデンを占拠した。バーデン＝ドゥアラッハは、占領時に発生した費用調達のために、ベジヒハイム、ムンデルスハイム、アルテンシュタイク、リーベンツェルをヴェルテンベルクに譲渡したが、マルシュとランゲンシュタインを手に入れた。1635年から1648年に、バーデン＝ドゥアラッハは一時的にバーデン＝バーデンにわたった。1654年にバーデン＝ドゥアラッハはラント法と領邦令^{ランデスオルドゥヌング}を公布した。1666年ないし1667年に、バーデン＝バーデンは、伯領エーバーシュタインの部分を得た。啓蒙絶対王制の典型的な国に発展していたバーデン＝ドゥアラッハは、1771年にバーデン＝バーデンを相続した。1780年頃にアルゲンシュヴァングとヴァイラーの一部分とともに、ライン騎士クライスのニーダーラインシュトローム・カントンの構成員であり、それ以外にもフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンの構成員であったバーデンは、1785年頃、3500平方キロメートルの大きさで、住民は約19万人であった。1796年にそれはライン川左岸の数多くの領土をフランスに失った（ランダウ近郊の役所管轄地域ロート〔バーデン＝ドゥアラッハ〕、ウンターエルザスの領地バインハイム、ピルマーゼンス近郊の役所管轄区域グレーフェンシュタイン、ルクセンブルクの領地ヘスベリンゲンと領地ローデマヒェルン、フンスリュックの伯領シュボンハイムの部分）。1800年頃にバーデンは27平方マイルの地域を包括していた。なお1803年2月25日に、バーデンは、ドイツ帝国代表者会議主要決議第5条により選帝侯領に上昇し、プファルツのライン川右岸の部分（ハイデルベルク、マンハイム、ラーデンプルク、ブレッテン）と、高司教区本部コンスタンツ、高司教区本部バー

ゼル(部分的に)、高司教区本部シュトラースブルク(部分的に)、高司教区本部シュパイアー(部分的に)、ハーナウ-リヒテンベルクないしヘッセン-ダルムシュタットの役所管轄区域リヒテナウと役所管轄区域ヴィルシュテット、ナッサウ-ウージンゲンの領地ルール、帝国大修道院領ペータースハウゼン、帝国大修道院領ゲンゲンバッハ、帝国大修道院領オーデンハイム、帝国大修道院領ザーレム(オストラッハは含まれない)、帝国都市オッフエンブルク、帝国都市ブフレンドルフ、帝国都市ゲンゲンバッハ、帝国都市ビーベラッハ(1806年にヴュルテンベルクに)、帝国都市ツェル・アム・ハルメルスバッハ、帝国都市ユーバールンゲン、帝国都市ヴィンプフェン(後にヘッセンにわたる)、ハルメルスバッハ帝国峡谷、シュヴァルツァッハ修道院、フラウエンアルプ修道院、アラーハイリゲン修道院、リヒテンタール修道院、エテンハイムミュンスター修道院、エーリングゲン修道院、そしてライヒテナウ修道院、同様にわずかの土地によって補償された。その補償により、バーデンは7200平方キロメートルの大きさで住民44万5000人に増大した。またバーデンは1805年にモデナないしオーストリアの公から、ブライスガウの大部分、オルテナウ、ヴィーリングゲンを含むバル、都市コンスタンツ、ドイツ騎士団の騎士修道会管区マイナウを、合計2530平方キロメートルの大きさと住民16万人をともなって、手に入れた。それはライン同盟への加入により、1806年に大公領となり、さらに諸侯領フルステンベルク、諸侯領ライニンゲン、諸侯領クラウトハイム(ザルム-クラウトハイム)、方伯領クレットガウ、帝国伯領ボンドルフ、ヨハネ騎士団修道分院ハイテルスハイム、マイン川の南部に位置する諸侯領ヴェルトハイムの部分、そして帝国騎士領に囲まれた土地を獲得した。また1806年に、若干の領土変更がヴュルテンベルクと取り決められた。1810年、バーデンは1805年以降ヴュルテンベルクの方伯領であるネレンブルクとホーエンベルク上部伯領を、シュヴァルツヴァルトの周辺地域(ヴュルテンベルクに近接)とアモルバッハ(ヘッセン-ダルムシュタットに近接)と交換して手に入れた。それゆえバーデンは約1万5000平方キロメートルで、住民約97万5000人となった。なお1810年にバーデンはバーデン地方のラント法としてナポレオン法典を受け継ぎ、1818年には憲法(立憲君主制)をもった。同時にバーデンはマインクライスとタウバークライスにある役所管轄地域シュタインフェルト(1810年までローテンフェルス)とライニンゲンの一部をバイエルンに譲渡しなければならなかったが、オーストリアから侯領フォン・デア・ライエンを手に入れた。なおバーデンは1819年に領地ゲロルドゥスエック(ホーエンゲロルドゥスエック)を獲得することができた。1830年にバーデン大公カール・フリードリヒの子孫レオポルトは、ルイーゼ・ガイエル・フォン・ガイエルスベルク(1796年以後ホッホベルク帝国伯女)と共に、次第に自由主義の「ムスターレンドレ」(模範国)になったバーデンの大公となった。1870年、バーデンは北ドイツ連邦ないしドイツ帝国に加入した。1918年11月22日、大公フリートリヒ2世は退位した。1933年3月に国家社会主義者たちが行政を受け継いだ。1945年、バーデンはアメリカに占領されたノルトバーデン(ヴュルテンベルク-バーデンの部分)と、フランスに占領されたフライブルクを首都としたズエートバーデン(バーデン)に分けられた。1951年ないし1952年に、それは新しいバーデン-ヴュルテンベルク州に吸収された。

Baden-Baden バーデン-バーデン (辺境伯領)

バーデン-バーデンは1515年ないし1535年以降、バーデンの辺境諸伯（上辺境伯領バーデン）の、バーデン（-バーデン）に居館をもつ、そして1705年以降は、1247年に言及されている、13世紀にエーバーシュタイン-カルヴ諸伯に獲得されたラシュタットに居館をもつ、一分家であった。その辺境伯領に、アルプ川南部に位置する中部バーデンの全ての土地-修道院ヘレンアルプと修道院フラウエンアルプに対する保護代官地、ライン川左岸の領地バインハイムと、ルクセンブルクの諸領地を含めて-は、所属していた。1567年のヴェルテンベルクのラント法と1572年のクーアザクセン規約によって影響を受けた、1810年まで有効になるラント法が、バーデン-バーデンで1588年に公布された（バーデンのラント法1）。1594年から1622年まで、バーデン-バーデンはバーデン-ドゥアラッハに占領された。1666年ないし1667年に、それは伯領エーバーシュタインの一部を獲得した。1771年にバーデン-バーデンはバーデン-ドゥアラッハによって相続された。

Baden-Durlach バーデン-ドゥアラッハ (辺境伯領)

バーデン-ドゥアラッハは、1515年ないし1535年以降プフォルツハイムに、1565年以降ドゥアラッハに、1724年にはカールスルーエに居館をもつ、バーデン辺境伯の分化した系であった。その系はブライスガウにある諸領地、つまり領地ハッハベルク、領地レッテルン、領地ザウゼンベルク、そして領地バーデンヴァイラー（いわゆるマルクグレーフラーラント）、同様にプフォルツハイムの役所管轄区域・都市・城、ドゥアラッハの役所管轄区域・都市・城、ミュールブルク（ミュールベルク）の役所管轄区域・都市・城、レムヒンゲンの役所管轄区域・都市・城、シュタインの役所管轄区域・都市・城、グラーベン・ウント・シュタッフホルツの役所管轄区域・都市・城、アルテンシュタイク・ウント・リーベンツェルの役所管轄区域・都市・城、ムンデルスハイムの役所管轄区域・都市・城、そしてベジークハイムの役所管轄区域・都市・城、そのほかウンター・ハルトを含むアルプ川北部に位置するライン河畔の村々を包括していた。1556年にバーデン-ドゥアラッハは新教化した。バーデン-バーデン占領時に発生した費用を調達する目的で、バーデン-ドゥアラッハはベジークハイム、ミュンデルスハイム、アルテンシュタイクとリーベンツェルをヴェルテンベルクに譲渡したが、マルシュとランゲンシュタインバッハは獲得した。1635年から1648年までバーデン-ドゥアラッハは一時的にバーデン-バーデンにわたった。バーデン-ドゥアラッハに対して1654年に、1622年には印刷され1810年まで有効となる「マルクグレーヴェンシャフト・バーデンとマルクグレーヴェンシャフト・ホッホベルクのフルステントウンバーのラント法と条例」等々が施行された（バーデンのラント法2）。1771年に、啓蒙絶対王政の模範国に発展したバーデン-ドゥアラッハは、バーデン-バーデン系を相続した。バーデンは1800年頃、27平方マイルの広さであった。

Baden-Hachberg バーデン-ハッハベルク

参照ハッハベルク

Baden-Sausenberg バーデン - ザウゼンベルク

参照ザウゼンベルク

Baden-Württemberg バーデン - ヴュルテンベルク (ラント [連邦州])

1918年ないし1919年以降、バーデン、ヴュルテンベルク、そしてプロイセンに所属している行政区ホーエンツォレルンを統合しようとする努力があった。1945年に連合軍占領地区の軍政府は、ノルトバーデンとノルトヴュルテンベルクから、アメリカに占領されたラント・ヴュルテンベルク - バーデン (首都シュトゥットガルトと1946年11月28日の憲法をもつ) を、ズュートバーデンから、フランスに占領されたラント・バーデン (首都フライブルクと1947年5月22日の憲法をもつ) を、同様にズュートヴュルテンベルクとホーエンツォレルンから、フランスに占領されたラント・ヴュルテンベルク - ホーエンツォレルン (首都テュービンゲンと1947年5月18日の憲法をもつ) を、創設した。これら3つのラントを統合する試みは、先ず、バーデン復元という (ズュート) バーデンの要請にぶつかり失敗した。1951年5月4日のドイツ連邦共和国の再編成法に基づいて、1951年12月6日に実施された国民投票での、ノルトバーデン、ノルトヴュルテンベルク、そしてズュートヴュルテンベルク (ホーエンツォレルンを含む) の大多数 (合計69.7%) の結果、ズュートバーデンに反して、統合は決定された。3万5750平方キロメートルで住民 (1964年に) 820万7000人、州都シュトゥットガルトと決定された新連邦州バーデン - ヴュルテンベルクのために、1952年3月9日に憲法制定に関する権能をもつ州の会議 (制憲議会) が開かれた。1953年11月11日にバーデン - ヴュルテンベルク州は憲法をもった。1956年9月8日ないし16日の国民の要求に応じて行われた選挙では、ズュートバーデンの投票有権者数の僅か22%と、ノルトバーデンの投票有権者数の8.7%が、バーデン州の復元に賛成した。

Badenweiler バーデンヴァイラー (領地)

すでにローマ人の時代に、ミュルハイム近郊のバーデンヴァイラーに開拓村落が存在していた。1028年にバーデンと呼ばれていたバーデンヴァイラーは、1122年頃ツェーリングン家の城塞があった一領地の所在地であった。その領地は1368年にフライブルクの諸伯にわたったが、1444年にバーデンヴァイラーはハッハベルクの辺境諸伯 (バーデン - ハッハベルク)、1503年にバーデン、そしてその結果、1951年ないし1952年にバーデン - ヴュルテンベルク州にわたった。

Bafel バーフェル (帝国村)

Baiern バイエルン

参照バイエルン Bayern

Baiersdorf バイエルスドルフ

参照バイエルスドルフ Bayersdorf

Baiershofen バイエルスホーフエン（帝国直属身分の領地）

バイエルスホーフエンはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。そして帝国直属地位を剥奪されるより前にエルヴァンゲンにわたった。

Baindt バイント（帝国大修道院）

1227年に女性たちはゼーフェルデンに、1231年にメンゲンに、その次にはザウルガウ近郊のボースに集まった。彼女らに、グレゴリウス9世は1236年6月20日にシトー会女子大修道院の設立の証書を発行した。宮廷献酌侍従で帝国直轄地代官であるコンラート・フォン・ヴィンターシュテッテンは、1240年ないし1241年に、その修道院をバイントに移した。皇帝フリードリヒ2世は、その修道院に帝国の保護を与えた（1240年8月21日、1241年3月）。その修道院はザレムの聖職者の管轄下にあり、支配領地を有していなかった。帝国議会のシュヴァーベン高位聖職者合議体において議席をもつ帝国直属大修道院バイントは1803年に世俗化され、アスプレモント（アスプレモントーリンデン）の諸伯にわたった。1806年にそれはヴェルテンベルクにわたり、そしてその結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州にわたった。

Baldeck バルデック（帝国騎士）

1542年から1565年まで、マゴルスハイムに土地を有しているバルデック家はシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンの構成員であった。

Baldenstein バルデンシュタイン、Baltenstein バルテンシュタイン（城塞、帝国騎士）

ケンプテン近郊の城塞バルデンシュタインの名称に因んで、命名していたケンプテン修道院の家人たちは、1239年に出現した。1752年にバルデンシュタイン家はシュヴァーベン騎士クライスのヘーガウ・カントンに属していた。バルデンシュタイン自体は、相続により、1366年にハインツ（不平家）・フォン・ラウンツェンリートに、1370年に売却によりシェールラング家に、更にまた売却により1479年にケンプテンの施療院にわたった。バルデンシュタイン城を、司教区本部ケンプテン修道院は、1551年にレーンとして、アウクスブルクの都市貴族から、再び請け出した。参照バイエルン。

Baldenstein バルデンシュタイン

参照リンク（ライヒ）・フォン・バルデンシュタイン

Baldern バルデルン（領地）

リース盆地の西端にあるバルデルンは1153年に初めて出現している。1215年、その城塞は交換によって高司教区本部レーゲンスブルクから大修道院エルヴァンゲンにわたった。1250年に領地バルデルンは、エルヴァンゲンの代官であるオエッティンゲンの諸伯によってレーンとして獲得された。その先祖代々の屋敷の分割後、1662年に領地バルデルンは、オエッティンゲン-バルデルン-カッツェンシュタイン系の居館となった。1798年にバル

デルンは相続によりオッエティンゲン－ヴァラーシュタイン、1806年にバイエルン、そして1810年にヴュルテンベルクにわたった。そしてその結果、1951年ないし1952年にバーデン－ヴュルテンベルク州に吸収された。

Baldesheim バルデスハイム（帝国騎士）

1550年頃にバルデスハイムはフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Baldwile バルドヴィーレ、Baldenwil バルデンヴィル（帝国村落）

1409年2月26日、ループレヒト王はエーバーハルト・フォン・ラムシュヴァークに（スイスのヘリザウ近郊の）バルドヴィーレの自由人（身分）を認めた。

Balgheim バルクハイム

参照モク（メック）・フォン・ベルクハイム

Ballenstedt バッレンシュテット

参照アンハルト、アスカニア

Ballmertshofen バルマーツホーフエン（帝国直轄領地）

バルマーツホーフエンはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに所属していたが、トルン・ウント・タクシスにわたった。参照バーデン－ヴュルテンベルク。

Baltenstein バルテンシュタイン

参照バルデンシュタイン Balenstein

Baltikum バルト海沿岸地方（地方）

バルト海沿岸地方は1918年まで、1561年にリーフラント連邦から誕生した3つの行政区域（管轄区域）、エストニア、リーフラント、そしてクーアラントの共通の名称であった。1918年にエストニア行政区域と、エストニア人によって居住されていた北リーフラントからはエストニアが、南リーフラント、クーアラント、そしてかつてのポーランド－リーフラントからはラトヴィアが、同様にリトアニア人によって居住されていた地域リトアニアからはリトアニアが発生した。

Baltzhofen バルツホーフエン（帝国騎士）

1550年までバルツホーフエン家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Balvengau バルヴェンガウ (バルロイアン、ルール川の南部のガウ)

Balzheim バルツハイム (領地)

オーストリアの領邦君主権の下、ブルガウのイラー河畔の領地バルツハイムは、バルツハイムの諸君主 (エーヒンガー・フォン・バルツハイム、1734年没) に属していた。参照バーデン-ヴェルテンベルク。

Bamberg, Domkapitel バンベルク、司教座聖堂参事会 (帝国騎士)

1800年頃、バンベルク司教座聖堂参事会はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンとシュタイガーヴァルト・カントンに属していた。

Bamberg, Dompropstei バンベルク・司教座教会参事会主席職 (帝国騎士)

1800年頃、バンベルク司教座聖堂参事会主席職はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンとシュタイガーヴァルト・カントンに属していた。

Bamberg バンベルク (高司教区本部)

早くもハルシュタット期に建設され8世紀以降に再度植民され、741年ないし742年には伝道教会が建設されていたバンベルクは、10世紀初頭以降カストルム・バーヴェンベルク、つまりバーベンベルク-ドームベルクの上-と呼ばれていた (902年にカストルム・バーベンベル)。それは、カロリング時代と、またバンベルクに因んで名乗っていた、フォルクスフェルトに土地を有していたバーベンベルク家の没落後906年に、王領であったが、オットー2世から973年にバイエルンのハインリヒ喧嘩公にわたった。この喧嘩公の息子ハインリヒ2世と、それを朝の贈物として得ていた妻のクニグンデにより1007年に、1002年以降バンベルクに創設されていた教会にわたった。その教会は1007年にスラヴ人宣教団の司教教会に上昇した。その新しい、まもなく教皇直属となった司教区は皇帝直属司教区本部となり、とくにヴェルツブルクの地域とアイヒシュテットの地域 (フェルス、ヘルスブルック、エアランゲン、ヴィルゼック、ホルヒハイム [1062年]、ヘヒシュタット [1157年]、ライヒェンハル) を手に入れた。小教区の数に創設当初30程だったのが中世のあいだに200以上に増加した、しかし司教区はヴェルツブルク (パンツ、エブラッハ)、アイヒシュテット (ニュルンベルク)、レーゲンスブルク (エガーラント) に限定され、全部合わせても小さいままだった。高司教区本部の基礎をなしたのは、ハインリヒ2世からの、フォルクスフェルトガウとラーデンツガウにあった豊かな贈物 (906年に古いバーベンベルク家から帝国にわたった所有地の中からテーレス等)、バイエルンと (アルプス越えの保証のために) ケルンテンにあった贈り物、同様にシュタイアーマルク、オーバーエスターライヒ、そしてティロールにあった (タルヴィスとポンターフェルを含むヴィルラッハ、ヴォルフスベルクとプライベルク、グラン河畔のザンクト・ヴァイト、ロッテンマン、グラインク、キルヒドルフ、シュリーアバッハ、ピールン河畔のシュピタル、ヴィンディッシュガルステン、アッターゼー、フランケンブルク、カムマー、コーグル、アッターガウのザ

ンクト・ゲオルゲン、フリートブルク、マティッヒホーフェン、ヴァイルバッハ、エップス、キッツビューエル、ガイス、ノイハウス、タウファーのザンクト・ゲオルゲン、等等、それらは後に整理されることになるが)、そして後には、帝国の西部の贈り物である。ノルドガウにおける土地の損失(ヘルスブルック、フェルデン、アウエルバッハ)にもかかわらず、司教たちは好都合にもシュヴァインフルトの諸伯の、アーベンベルクの諸伯の、その代官職を有していたアンデックスの(1248年にリヒテンフェルトの)諸伯の、シュルッセルベルクの諸君主の滅亡により、優遇された。そして14世紀末までに、相続と購入により、かれらの世俗領地を司教区の半分まで拡張するのに成功した。その際かれらは数多くの伯領に依拠し、1248年以後は皇帝のラント裁判所バンベルクに依拠した。1435年、司教たちは都市バンベルクをめぐる市民と闘った。1532年のカロリナ刑事法典の模範となったバンベルク刑事裁判令は、1507年にできた。宗教改革により、その司教区は全小教区の3分の2を失ったが、部分的には再びカトリック化した。1631年、その司教区はグスタフ・アドルフ・フォン・シュヴェーデンに征服され、公領フランケンに配分された。しかし1648年に再び元の状態に戻された。1647年にバンベルクは単科大学をもった。その大学は1735年ないし1772年に完全な大学(1803年まで)になった。1759年にケルンテンにあった土地は購入され、^{エスターライヒ}オーストリアにわたった。1800年頃、バンベルクはフランケン騎士クライスのゲビルク・カントン、シュタイガーヴァルト・カントン、そしてバウナッハ・カントンの構成員であった。65平方マイルないし3580平方キロメートルの面積で、住民22万人、収入150万グルデンある、その侯司教区は、1803年にバイエルンにわたった。1817年、司教区ヴェルツブルク、司教区アイヒシュテット、司教区シュパイアーを含む新しい教会行政区バンベルクは、属司教としてつくられた。

Bamberg, Kloster Sankt Klara バンベルク、クロスター・ザンクト・クララ (帝国騎士)

1800年頃にバンベルクの修道院ザンクト・クララは、フランケン騎士クライスのゲビルク・カントんに属していた。

Bamberg, Kloster Sankt Michel bzw. Michaelsberg バンベルク、クロスター・ザンクト・ミヒャエルないしミヒャエルスベルク (帝国騎士)

1800年頃、バンベルクの修道院ザンクト・ミヒャエルは、フランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントン、アルトミュール・カントン、そしてバウナッハ・カントんに属していた。

Bamberg, Kloster Sankt Stephan バンベルク、クロスター・ザンクト・シュテファン (帝国騎士)

1800年頃、修道院ザンクト・シュテファン・ツー・バンベルクはフランケン騎士クライスのゲビルク・カントン、シュタイガーヴァルト・カントン、そしてバウナッハ・カントんに属していた。

Banz, Kloster バンツ・クロスター (帝国騎士)

1800年頃、修道院バンツはフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンとバウナッハ・カントンに属していた。

Banzgau バンツガウ、(バンツゴウヴェ、バンベルクの北)

Bar バール (諸伯、諸公)

マース川上流河畔のその地域は959年頃以降、ロートリンゲンの諸公の支配下にあった(オーバーロートリンゲン)。960年頃に大公フリートリヒ1世はロートリンゲン・ツォア・シャンパニユーの邦境に、城塞バルルム・ドゥキス(バルール・ドゥク)を建設した。その周辺の土地は、フリードリヒ2世の死亡時1033年に娘を経由して、後のバールの諸伯にわたった。バルール・ドゥク、ゴンドレコート、ザイント・ミヒール(ザイント・ミヒール)に対する代官地、アマンス、モーゼル河畔のモッサン、そして後にルクセンブルクにわたったディーデンホーフエン(ティオンヴィレ)を含むブリアイが、かれらの土地であった。1284年にフランスがシャンパニユー地方を獲得した後、伯爵ハインリヒ3世は1301年に、バールを含むマース川左岸の土地をフランス王にレーンとして委託しなければならなかった。ルクセンブルクが公領となった1354年3月13日に、カール4世は、その伯領のうち帝国に残った地域を辺境伯領ポント・ア・モッサンとして統一した。それゆえバールの諸伯は都市ポント・ア・モッサンの君主として帝国諸侯となった。なお同年に、かれらは諸侯称号を手に入れた。1415年に、その公領は、甥の息子レネー・ドゥ・アンジューを養子にしたフェアドゥンの司教ルートヴィヒにわたったので、その結果、バールは1420年にロートリンゲンと合併した。公領バールは名目上だけ帝国と結びついていた。1634年にフランスに占領されたバールは、体制と言語でフランスに傾倒した。1659年にそれはフランスのレーンとなった。1735年10月5日にバールは(ポーランドを放棄したので)スタニスラウ・レスチンスキーにわたり、1738年に事実上、1766年には正式にフランスにわたった。

Barbelstein バルベルシュタイン、Berwartstein ベルヴァルトシュタイン (領地)

バルベルシュタイン城の周辺、ヴァイセンブルクの北西部に領地が形成された。それは後にヴァルデンプルクの諸君主の権限に属した。それはシェーンエックとともに方伯領ウンターエルザス(ニーダーエルザス)にある下級総督領ヴァイセンブルクに所属していたが、エルザスとともにフランスにわたった。1815年にバルベルシュタインはオーストリア、1816年にはバイエルン、そして1946年にはラインラント・プファルツ州にいきついた。

Barbiano・di・Belgiojoso・d' Este バルビノ・ディ・ベルギョソ・ドゥ・エステ (帝国侯)

1769年にアントニオ・マリア・バルビノ・ディ・ベルギョソ・ドゥ・エステは帝国諸侯に上昇した。

Barby バルビー (諸伯)

参照アルンシュタイン・バルビー

Barchfeld バルヒフェルト^{オルト} (村落、領地)

ニュルンベルクから低地ドイツへの街道と、フランクフルトからエアフルトへの街道の交差点のヴェラ川付近に位置するバルヒフェルトは、933年に初めて言及されている。それは1330年にフランケンシュタイン家からヘンネベルクの諸伯にわたった。その諸伯はそれを幾度も担保入れた後(1350年にフルダ、次にシュタインの諸君主[シュタイン-リーベンシュタイン]、同じようにヘッセンの諸方伯に)、1521年からは継続的にヘッセンと共同で使わなければならなかった。それは1583年に完全にヘッセンのものとなった。ヘッセン-(フィリップスター-)バルヒフェルト系は、1690年以降建設された城塞ヴィルヘルムスブルクを居所とした。参照ヘッセン-バルヒフェルト。

Bardengau バルデンガウ (Bardunga バルドウンガ、Bardanga バルダンガ、Bardaga バルダガ、ルーエ川右岸のイルメ周辺のガウ、エルベ川左岸)

Bärenfeld ベーレンフェルト (帝国諸侯)

1742年にカール・フリードリヒ・フォン・アンハルト-ベルンブルクの2人の息子は、1719年にバレンシュテット帝国伯女に上昇した一官房顧問官の娘とともに、ベーレンフェルト諸侯の名前で帝国諸侯に上昇した。すでに1701年にはレオポルト・フォン・アンハルト-デッサウの妻、薬剤師の娘アンナ・ルイーザ・フェーゼと、彼女の息子たちは、帝国諸侯位を得ていた。

Bärenwalde ベーレンヴァルデ (領地)

領地ベーレンヴァルデはマルク・ブランデンブルクに属していた。またそれは、1577年の記録簿によれば、ハーフェルラント、グリーン、司教区ブランデンブルク、ツァウヒェ、ペーリツ、ツォッセン、トイピッツ、ベースコウ、シュトルコウ、そしてミッテルマルク(ノイマルク)の全土と行政上合併されていた。

Bargau バールガウ (帝国騎士の領地)

1326年に初めて言及されているシュヴェービシュ・グミュント近郊のバールガウ(バルゲン)は、もともとは、1393年にその領地を個人のものとして獲得し、それを1544年に帝国都市シュヴェービシュ・グミュントに売却したレヒベルク諸君主のエルヴァンゲンの、次にホーエンローエのレーンであった。それは1802年ないし1803年に帝国都市シュヴェービシュ・グミュントとともにヴュルテンベルクにいきつき、その結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴュルテンブルク州に付け加わった。

Bargensisi pagus バールゲンジス パーグス (地名バル)

Barille バリレ (帝国騎士)

18世紀に、バリレ家は、騎士領ギュンドリンゲンの持ち分、1753年から1759年にエックの帝国騎士たちに売却した騎士領デュレンハルト (ドゥレンハルト) の持ち分とともに、シュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンに所属していた。

Baringau バリンガウ

Barmstedt バルムシュテット (役所管轄区域^{アムト})

ピンネベルク近郊のバルムシュテットに因んで、12世紀にバルムシュテット (バルムシュテデ) の諸君主はそう名乗っていた。その村は、シャウムブルク (シャウエンブルク) の諸伯の滅亡後、1640年にゴットルプ (ゴットルフ) 公にわたった領地ピンネベルクの一部に属していた。ゴットルプ公は、行政管轄区域バルムシュテットを、1650年に帝国伯に上昇する宮廷官房官クリスティアン・ラントツァウに、1649年に売却した。それをデンマーク王は1726年に没収した。1865年にバルムシュテットはプロイセンに、1946年にはシュレースヴィヒ-ホルシュタイン州にいきついた。参照ラントツァウ、シュレースヴィヒ-ホルシュタイン。

Bärnegg ベルンエック (領地)

エルゼナウの城塞ベルンエックはゴットフリート・フォン・シルトベルクにより、12世紀末頃に建設された。その城塞は密集した開墾領地の中心となり、文書上1316年に初めて言及されている。15世紀に、領地ベルンエックはオーストリア^{エスターライヒ}から分離し、シュタイアーマルクと結びついた。1490年に皇帝は領地ベルンエックをペルネル家から剥奪したが、1529年に再びかれらに返した。1550年ないし1571年に、それは相続によりリンツマウル家にわたった。

Barr バル **Barre** バレ (帝国村、領地)

ヴォーゲーゼン山脈の東側の山麓に位置するバルは、もともとは帝国領であった。1409年6月6日にループレヒト王は、息子であるライン宮中伯ルートヴィヒに帝国村バレ - 同様にハイリゲンシュタイン、ゲルトヴァイラー (ゲルトヴィラー)、ゴックスヴァイラー (ゴックスヴィラー)、オーバーブルクハイムとニーダーブルクハイム - を、帝国担保として所有することを許可した。そこから形成された領地は1472年にプファルツ、1568年には購入により帝国都市シュトラースブルクにわたった。1790年に、それはフランスに吸収されて消滅した。

Barre バレ (帝国村)

参照バル

Barrense バレンゼ

Bärstein ベーアシュタイン、Börstingen ベーアスティングエン (帝国村?)

Bartenau? バルテナウ? (帝国騎士)

オーデンヴァルト・カントン、フランケン騎士クライス、後にフォン・シュテッテン。

Bartennstein バルテンシュタイン (領地)

1247年に初めて言及されているシュヴェービシュ・ハル近郊のバルテンシュタインに、シュタインの諸君主の城塞が建設された。バルテンシュタインの騎士たちは1247年から1350年まで帝国封臣であり、^{レーンスマン}ホーエンローエの封臣でもあった。マインツとホーエンローエのレーンから、同様に(地代・年貢など封建的義務を負わない)自由地から、一領地が生まれた。それは1438年から1475年までホーエンローエの諸伯によって獲得され、そのあとヴェルツブルク司教にレーンとして委託された。1533年ないし1555年に、バルテンシュタインはホーエンローエ-ヴァルデンブルク系、その後ホーエンローエ- (ヴァルデンブルク)-バルテンシュタイン系、1806年にはヴェルテンベルク、そしてその結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州にわたった。参照ホーエンローエ-ヴァルデンブルク-バルテンシュタイン。

Bartennstein バルテンシュタイン (帝国騎士)

1743年から1805年まで、バルテンシュタイン家の一員はシュヴァーベン騎士クライスの^{ベルゾナリスト}コヒャー・カントンの奉公人として登録簿に登録されていた。

Barth バルス (公領)

1232年に初めて言及されている、バルト海沿岸のシュトラールズントの西方に位置するバルスは、1325年ないし1369年にポメルンに所属し、そして1376年から1393年まで、1425年から1451年まで、そして1457年から1478年まで、ポメルン-ヴォルガストから分離した公領ポメルン-バルスの議席を有していた。参照ポメルン-バルス、メクレンブルク-フォアポメルン。

Bartholomä バルトロメ (帝国騎士の^{オルト}村落)

中世末までラウベンハルトと呼ばれていた、シュヴェービシュ・グミュントの東部に位置する村落バルトロメは、17世紀中頃まで領地ラウターブルクに所属していた。それはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。参照バーデン-ヴェルテンベルク。

Bartholomä-Ahausen バルトロメ-アーハウゼン

参照ゾンマーハウゼン

Basel バーゼル（侯司教区、大高司教区本部）

バーゼルはアミアヌス・マルツェリヌスにより374年に初めて言及されたが、骨壺埋葬時期にも、ケルト人の時代とローマ人の時代（紀元前15年頃）にも入植されていた。5世紀に最初のアレマン人墓が、6世紀に最初のフランク人墓が出現した。バーゼルに居住した司教たちの、ある程度連続した名簿は8世紀中頃のヴァラ司教から始まっている。かれらの司教区はベサンコン大司教区に従属していた、そして7世紀初頭に（バーゼル-）アウクスト（アウグスタ・ラウラコルム）からバーゼルへ移されたと思われる。バーゼルは、912年以降所属していた王領ホッホブルグントの帝国への編入により、1033年に帝国直属になった。諸司教の世俗領地は特にブルグントのルードルフ3世（999年ないし1000年）の側からの、モウティーア・グランドファルス（ミュンスター-グランフェルデン）の贈与により、創設された。さらに様々な権利と土地（伯領ヘルキンゲンは1080年、エルザスのラッポルシュタイン領地は1163年）が手に入ったが、それらの一部はすぐに失われた（例えば、その都市に対する代官職）。13世紀に領地および代官地ビルスネック（帝国レーン）、領地および代官地アズエル、領地および代官地アジョイエ、領地および代官地ゾルネガウ、領地および代官地ザイント-ウアザンネ（ザイント・ウアザンネ）、領地および代官地モンティエ-グラントファル、領地および代官地ビール、領地および代官地ラ・ノイフェヴィレ、領地および代官地モンターニュ・デ・ディーゼ（モンターニュ・デ・ディッセ、テッセンベルク）、領地および代官地エルグエル、そして伯領ホンベルクと伯領プフィルト（1324年まで）を獲得、ないしは確保した。14世紀ないし15世紀には領地ショヴィリイー（ショヴェリーン）、領地ハルトマンズヴァイラー、領地ブーフエック、領地フランクエモントを手に入れた。13世以降都市バーゼルは、1395年以降たいていプルントルトかデルスベルクに居住し、1460年には新しい大学を創設した都市君主である司教の支配から解放され始め、自領を建設し始めた（請求権の最終的な解放、1585年）。ジュラ山脈の南側は14世紀中頃以降、スイス盟約団体の影響下に入った。1528年に帝国都市バーゼルはカトリックを禁止し、ザルスガウ、ブーフスガウ、ジスガウ、フリックガウにある高司教区本部の土地を自分のものにした。司教は住居を永久にプルントルト（ポレントルイ）に移し、1577年にスイス盟約団体のカトリックのカントンと結びつけた。高司教区本部には、ビール、ノイエンシュタット、また20平方マイルの大きさと住民六万人を含む領地エルグエル、領地イールフィンゲン（イルフィンゲン）、領地テッセンベルク、領地デルスベルク（帝国レーン）、領地プルントルン、領地ツヴィンゲン、領地ビルスエック（帝国レーン）、領地プフェッフィンゲン（帝国レーン）、領地シュリーナゲン（帝国レーン）、領地フライベルゲン（フライエンベルグ）（帝国レーン）が所属していた。1792年にフランス革命軍は、帝国に属しているバーゼルの部分を占領し、それらをラウラキス共和国に変え、1793年3月23日にフランスに組み入れた（モント・トリブレ県）。1793年にバーゼルのスイス盟約団体の部分は併合された。高司教区本部のライン川左岸のわずかな部分はバーデンにわたった。ウィーン会議はそれ以外にもスイス（ベルン・カントン [アールガウとヴァーツの独立の代償として]、バーゼル [ビルスエック] とノイエンブルク）とフランスへの所属を確認した。

Basel バーゼル（カントン）

参照バーゼル（高司教区本部）、バーゼル（帝国都市）、バーゼル－ラントシャフト、バーゼル－シュタット

Basel バーゼル（帝国都市、帝国代官都市）

5世紀に初めて言及されているバーゼル（前インドゲルマン語「エーバーシュタット」）は、最初は都市君主である司教の完全支配下にあり、870年に東フランク帝国、912年から1032年までホッホブルグントに所属していた。都市が発展するにつれてできた富は、司教財政の破綻の進行とともに、都市自身が重要な支配権をすべて手に入れていくのを可能にした。1362年以降バーゼルは自らを「自由都市」だと思っていた、そしてハープスブルクによる帝国代官職の獲得（1376年）のあとにハープスブルク家駆逐が続いた後、1387年には帝国都市に対して自由都市と呼ばれた。1392年のクライン－バーゼル獲得と1400年のジスガウにある諸領地の獲得は、自分の領国^{テリトリウム}への基盤をつくった。1501年7月13日にバーゼルはしぶしぶ9番目のオルトとしてスイス盟約団体に加わった。1521年ないし1585年に都市に対する司教の影響は決定的に取り除かれ、1528年には宗教改革が導入された。1531年からは、都市はもはや帝国議会に出席しなくなった。1798年にバーゼルのツunft親方長であるオクスはフランスの支援を受けてヘルヴェチア共和国を建国したけれども、カントン・バーゼルは、その時に失った自治権を1815年に取り戻し、1830年に2つの半カントンに分かれた。参照バーゼル－ラントシャフト、バーゼル－シュタット。

Basel-Landschaft バーゼル－ラントシャフト Basel-Land バーゼル－ラント（半カントン）

14世紀末以降帝国都市バーゼルは農村の支配地域を獲得した。フランスと協力して1798年に、バーゼルのツunft親方長であるオクスは、これまで家臣関係に立たされていたラントシャフトをヘルヴェチア共和国の中で対等の立場に置いた。ヘルヴェチア共和国は1814年に衰退したので、1830年にラントシャフトは内戦で立ち上がった。その結果、カントン・バーゼル－ラントシャフトは、1833年8月26日に2つの半カントンに分かれた。バーゼル－ラントシャフトは1863年に民主主義の憲法を得た。

Basel-Stadt バーゼル－シュタット（半カントン）

バーゼル－シュタットは、支配する都市バーゼルに抗する地方バーゼルの蜂起の結果として、カントン・バーゼルの分割によって1833年に発生した半カントンである。参照バーゼル（帝国都市）。

Baselgau (Basalgouwe) バーゼルガウ（バーザルゴウヴェ）

Bassenheim バッセンハイム（領地、[帝国諸伯、帝国諸侯]）

コブレンツ近郊のバッセンハイムはケルンの大司教たちの、1373年以降はヴィートの諸

伯のレーンであったが、イーゼンブルク-ブラウンスベルクの諸伯にわたった。かれらのアフターレーンストレーガー陪臣封土保持者から、ヴァルトボット家は、相続と購入によって徐々に、1729年から1801年まで帝国直属であったその領地を独占することになった。(1803年2月25日のドイツ帝国代表者会議主要決議第24条により、バッセンハイムの伯はピールモントとオルブリュック [オルブリュック] 所有のため、ア・フ・タ・イ大修道院領ヘッグバッハ [ミーティンゲンとズルミンゲン抜き、またバルトリンゲンに対する10分の1税を除いて] と、ブクスハイムの金利子1300グルデンを得た。1806年にバイエルンとヴュルテンベルクにおけるヴァルトボット-バッセンハイム家 [ヴァルトボット・フォン・バッセンハイム] は帝国直属地位を剥奪された。)

Bastheim バストハイム (帝国騎士)

1185年以降バストハイム家の一門はメルリッヒシュタット近郊に出現した。かれらは高司教区本部ヴュルツブルクのレーンとしてその城を保持していた。16世紀から18世紀末まで、バストハイム家はバストハイムとともにフランケン騎士クライスのレーン-ヴェラ・カントンに属していた。それ以外にも、その一門は1600年頃から1750年頃までシュタイガーヴァルト・カントンに登録されていたと思われる。

Bathory バトリー (帝国侯)

ジーベンビュルゲン地方の諸侯一門バトリーは1250年頃に初めて出現した。その一門はトルコ人とハンガリー王たちとの間で、比較的大きな独立を勝ち取った。1595年の契約により、ジーベンビュルゲン出身のジーギスムント・バトリー侯と子孫は帝国諸侯に上昇した。1613年その諸侯一門は死に絶えた。

Battenberg バッテンベルク (諸伯)

ラーン川上流とエーデル川上流間に土地を所有する伯、伯身分の貴族たちと同系であったと思われるヴィッツゲンシュタイン伯ヴェルナー1世の息子たちは、バッテンベルクの諸伯と名乗っていた。1223年にかれらはマインツ大司教のレーン主権を承認し、1234年ないし1238年に城塞と都市バッテンベルクを、そこに属する伯領の一部とともに、レーンとしてマインツに委託した。1291年に伯領バッテンベルクの一部は事実上マインツのものになった。一族滅亡の直前1314年に、ヘルマン伯は自らの持ち分をマインツに売却した。1322年に、ヴィッツゲンシュタインの諸伯は相続権を放棄した。1564年ないし1583年に役所管轄区域バッテンベルクはヘッセン、1648年にヘッセン-ダルムシュタットにわたった。(1851年ないし) 1858年に、バッテンベルク諸侯の称号は、ヘッセン王子アレクサンダーの貴賤相婚によって生まれた子供たちのためにつくられた。

Batthyany バットヒャニー (帝国侯)

14世紀末以降言及されている、今日のブルゲンラントとニーダーエスターライヒに土地を有するバットヒャニー家は、1630年にハンガリー伯位を獲得した。1764年1月3日にヨ

ゼフ2世の執事長官、つまりバットヒャニー伯カールはバットヒャニー家長子であるために帝国諸侯に上昇した。

Batuwa バトウヴァ (種族名称) Bataver ヴァタヴィア人

参照ヴェトウヴェ Betuwe

Baudissin バウディッシン (帝国諸伯)

ヴェッティン家の家人出自から上昇してきたと思われる、バウツェンの名に因んでそう名乗っていた一門バウディッシンは、1326年以降文書にて裏付けされている。それは1741年に帝国伯に上昇した。18世紀末以降、2つの系、つまりホルシュタインに居住していたクノープ系とラントツァウ系に分化した。その際に、ラントツァウ系に、バウディッシン-ツィンツェンドルフも所属した。

Bauer von Eiseneck バウアー・フォン・アイゼネック Baur von Eiseneck パウル・フォン・アイゼネック (帝国騎士)

17世紀にバウアー・フォン・アイゼネック家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト (、ゲビルク?)・カントンとパウツナハ・カントンに属していた。

Bauer von Heppenstein バウアー・フォン・ヘッペンシュタイン (帝国騎士)

1806年頃バウアー・フォン・ヘッペンシュタイン家はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンに属していた。

Bauerbach バウアーバッハ (帝国村)

ブレッテン近郊のバウアーバッハは778年ないし779年に初めてロルシュの富として言及されている (ブルバッハ)。それはロルシュからヒルザウ修道院にわたった。おそらくシュタウフェン家を経由して、その村落^{オルト}に対する帝国直轄地の代官職は、帝国にわたった。1305年に王アルブレヒト1世は、バウアーバッハを、ツァイゾルフ・フォン・マーゲンハイムに与えた。1330年7月18日に皇帝ルートヴィヒ4世 (バイエルン公) はアルブレヒト・ホーフヴァルト・フォン・キルヒハイムに、担保としてその代官職を与えた。マーゲンハイム家は、自らの権利をホーフヴァルト家に譲渡した。ホーフヴァルト家は、バウアーバッハをたびたび担保に入れた。1463年以降プファルツはその保護高権を継承した、そして、ヒルザウによる、その村落^{オルト}の、代官職を含めての、シュパイアー司教座聖堂参事会への売却によっても (1511年)、その保護高権を侵害されることを許さなかった。1803年にバウアーバッハはバーデンにわたった、そしてその結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴュルテンベルク州にきた。

Bauffremont バウッフレモント

参照ベアウッフレモント Beauffremont

Baum von Baumsdorf バウム・フォン・バウムスドルフ（騎士）

バウム・フォン・バウムスドルフ家はフォークトラントの騎士位に属していた。

Baumgarten-Eriskirch バウムガルテン－エリスキルヒ（領地）

ボーデン湖畔の領地バウムガルテン－エリスキルヒは1472年に帝国都市ブーフホルンに獲得された。参照バーデン－ヴェルテンベルク。

Baumpartner バウムパルトナー（男爵）

参照バウムガルトナー Paumgartner

Baumsdorf バウムスドルフ

参照バウム・フォン・バウムスドルフ Baum von Baumsdorf

Baunach バウナッハ（諸君主）

804年にフルダの覚書中に言及されている、イツ川がマイン川に注ぎ込む河口付近に位置し、フルダのレーンとして1057年までシュヴァインフルトの辺境諸伯の権限に属し、シュヴァインフルトの辺境諸伯から女子相続人を經由してアンデックス－メラーニエンの諸公にわたり、その後結婚によって1248年にトルーヘンディゲンの諸伯にわたったバウナッハは、1135年から1365年までバウナッハの諸君主の居所であった。1388年ないし1390年に、バウナッハは、購入によりバンベルクにわたった。バンベルクとともに、それは1803年にバイエルンにわたった。

Baunach バウナッハ（カントン）

バウナッハ・カントンはニュルンベルクに議席をもつ帝国騎士位のフランケン騎士クライスの下位区分である。それはそれ自体1800年頃フランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンとバウナッハ・カントンの構成員であった。

Baunach バウナッハ（帝国騎士）

16世紀にバウナッハ家はフランケン騎士クライスのバウナッハ・カントンに属していた。

Baur バウル（帝国騎士）

参照バウアー Bauer

Baussau バウサウ（領地） Busau ブーザウ

メーレンの領地バウサウは、メルгентハイムのドイツ騎士団に所属していた。参照チェコスロバキア。

Bautz zu Öden und Willenbach バウツ・ツォー・エーデン・ウント・ヴィレンバッハ（帝国騎士）

参照カブラー・フォン・エドハイム・ゲナント・バウツ、カブラー・フォン・エドハイム

Bautzen バウツェン（ラント）

古ソルビア人の人名ブディヒから由来しているバウツェンは、スラヴ人入植の初期以降、ミルカーネン一族の部族地域の筆頭地であった。長期にわたる紛争後、コンラート2世はバウツェン周辺の地域を勝ち得た。1081年に、それは帝国レーンとしてベーメン公にわたった。そこに、それは短い期間（1113年から1115年、1143年から1156年 [マイセン辺境諸伯]、1262年から1319年 [アスカニア家]、1469年から1490年）を除いて1635年まで、残った。またバウツェンは15世紀以降、領邦ゲーリツと領邦ツィタウと統合してオーバーラウジツになった。

Bayerischer Reichskreis バイエルン帝国クライス

バイエルン帝国クライスは1500年に建設され、1538年以降、下級帝国等族の周りに拡大し、ザルツブルク大司教とバイエルン公が交互に管理局を指導した。18世紀末から存在していた20の単独票の内、バイエルンは、1792年以後は9票を有していた。8人の聖職者のクライス等族とは、ザルツブルク大司教、フライジング司教、レーゲンスブルク司教、パッサウ司教、ベルヒテスガーデン侯である司教座教会首席司祭、レーゲンスブルク-ザンクト・エメラン大修道院長、そしてレーゲンスブルクのレーゲンスブルク-ニーダーミュンスター女子修道院長とレーゲンスブルク-オーバーミュンスター女子修道院長であった。世俗座12票の内、最終的にバイエルンは、バイエルンの、プファルツ-ノイブルクの、プファルツ-ズルツバッハの、ロイヒテンベルクの、ハーグの、エーレンフェルスの、ズルツビュルクとピールバウムの、ホーエンヴァルデックの、そしてブライテンエック（ブライテンエック）の票を有した。同時に、シュテルンシュタイン、オルテンブルク、そして帝国都市レーゲンスブルクも一票を有した。1521年から1793年の間にバイエルン帝国クライスは会議を252回催した。1806年に帝国クライスは解体された。

Bayern バイエルン（公領、選帝侯領、王領、共和国）

バイエルン人は6世紀中頃、ヨルダネス（ゲティカ族、55年バイバリ）において初めて言及されている。かれらは特にベーメン出身、西部出身、そして東部出身のゲルマン人から、同様にロマン人から構成されていた。その場合（アレマン人に重点が置かれるが、）ベーメン出身の移住者が名乗られている（ボイオーヴァリー、バーユーヴァリー）。そしてその新しい部族はローマの行政区域ノリクム・リペンゼの地域とラエティア・ゼクンダの平地に、主として6世紀初めに出現した。テオドリック大帝死去（526年）以降、メロヴィング朝の王トイデバルトによって任命され、フランク人に頼った（フランク？ブルグント人の？）アギロフینگ家（ガリバルト1世、550年-590年、居所はレーゲンスブルク）が、その新部族の頂点に立った。王国（レグヌム）建設後、その一族のタシロ3世がカール大

帝から解任された。その植民区域はレヒ川からエンス川に至るまで、プレムベルク（ないしブルクレンゲンフェルト）ないしナプブルクから、アルプス山脈（ボーツェン）まで広がっていた。8世紀初頭にキリスト教化したその部族の法は「バイエルン人の法」に記載されている（743年以前）。カロリング朝時代の末に、ラープ川まで、そしてフリアウル、イストリエンとダルマチアまで伸張していったバイエルンの公（ドイツ王アルヌルフ、907年-937年、辺境伯ルイトポルトの息子、ルイトポルト）が新たに出現した。オットー1世は947年にリウトボルディングー（ルイトボルディングー）の一族から、その公領を剥奪し、それをフリアウルとともに、リウトボルディングー（ルイトボルディングー）家の女人ユディツと結婚した兄弟ハインリヒに委任した。かれとハインリヒ（2世）喧嘩公のもとで、バイエルンは最大級に拡大した（952年に辺境伯領ヴェローナ、マルケン・クラインとイストリエンは976年まで）。しかしオットー2世は976年にハインリヒ喧嘩公を罷免し、バイエルンの東部^{オストマルク}辺境地域、ノルトガウ、そしてイタリア^{マルク}辺境地域を含むケルンテンを、バイエルンから切り離した。しかしハインリヒはそれを985年に再び手に入れた。ザーリア家の下で、バイエルンは大部分が一族構成員に与えられた。たとえば1070年から1139年までヴェルフエン家（1070年にヴェルフ1世、1101年にヴェルフ2世、1120年にハインリヒ黒公、1126年にハインリヒ傲慢公、かれはその上ザクセンも相続した）に、1139年にバーベンベルク家に、1156年から1180年までバーベンベルク家に残ったドナウ河畔の^{エスターライヒ}辺境地域（オストマルク、公領オーストリア）を分離し、新たにヴェルフエン家（ハインリヒ獅子公）に与えられた。1180年にハインリヒ獅子公の罷免とともに、なおオーバーエスターライヒ、トラウンガウ、シュタイアーマルク周辺の細分化されたバイエルン公領はヴィッテルスバッハ家のオットー、つまり11世紀半ば以降文書にて証明可能な、1120年頃以降、バイエルン宮中伯の公職を占めていた、シャイエレン（＝ヴィッテルスバッハ）諸伯の子孫にわたった。公領バイエルンをレーンとして授与することによって新たに誕生したヴィッテルスバッハ家の独立領主、バイエルンにおける厳格な行政を育成したヴィッテルスバッハ家（34のラント裁判所ないし救貧院）は、急速にバイエルンの大物たちとの紛争に巻き込まれた。都市レーゲンスブルクと高司教区本部レーゲンスブルクは、大司教区本部ザルツブルクと同じように、その公領から外れた。^{ランデスフュルスト}領邦君主には、バンベルク司教、ブリクセン司教、フライジング司教、そしてパッサウ司教、同様にティロール公の寡婦マルガレーテが^{エスターライヒ}オーストリア公ルードルフ4世に譲渡していたティロールの諸伯、そしてロイヒテンベルクの方伯たちもなった。逆に、その公は、1208年に、その公領の相続の認可と、宮中伯オットー8世の帝国レーンとアンデックス伯のハインリヒ・フォン・イストリエンの帝国レーンを、1214年にライン宮中伯領を報土授与すること、そしてほぼ同時期に数々の土地（とくにアイプリング）を獲得した。1240年には、かつてフライジングの都市であったミュンヒェンを獲得した。かれは1242年にボーゲン伯の遺産を、1248年にアンデックスの諸伯とオルテンブルク本家の諸伯の遺産を相続し、ヴァッサーブルク最後の伯を追放した。それから1254年ないし1255年に、バイエルンは、小さな西の部分（ノルトガウとライン宮中伯領、そして選帝権を所属した「オーバーバイエルン」）と、東の大きい部分（ラインハル、ヒアーム、フライジング、ラントフート間の「ニーダーバイエルン」）に分け

られた。1268年に、バイエルンは、オーバープファルツとレヒ河畔（ラントベルク）にあるコンラディンの遺産を、特にオーバーバイエルン（アンベルク、ホーエンシュタイン、フィルスエック [帝国直属代官地]、アウアーバッハ、プレヒ、ヘルスブルック、ノイハウス、オーバープファルツのノイマルクト、ベルンガウ、ドーナウヴェルト、メーリング、シュヴァーベック、ショーンガウ）、わずかな大きさであるが、同様にニーダーバイエルン（フロス、パルクシュタイン、ヴァイデン、アーデルブルク [アーデルンブルク]）を手に入れた。1289年にバイエルンは選帝権をベーメンにとられた。1294年にプファルツはオーバーバイエルンから分かれた。1314年にルートヴィヒ 4 世（オーバーバイエルン公）はドイツ王に選出された（1328年皇帝）。かれは1323年に息子ルートヴィヒ 5 世に、アスカニア一家滅亡により空位になったマルク・ブランデンブルクを授与した。1331年に 3 分割されたニーダーバイエルン系は、1340年に滅亡した。かれらの土地は、皇帝ルートヴィヒが1335年ないし1346年にラント法を公布したオーバーバイエルンに再び戻った。1329年にはルートヴィヒ自身パヴィアの家門契約の中で、兄弟の息子たちに、プファルツ（ラインプファルツ）と、ノルトガウの一部、つまりオーバープファルツを譲渡した（選帝権を含めて）。皇帝ルートヴィヒ 4 世の計画とは反対に、6 人の息子は、1349年ないし1351年ないし1353年にバイエルンと、それ以外の獲得した土地（1346-1433年に伯領ホラント、^{ゼーラント}伯領シェラン、^{ハウスフェルトラーク}伯領フリースラント、伯領ヘネガウ、それ以外にティロール [1342年-1363年]）を分割した。ルートヴィヒ 5 世（バイエルン-ミュンヘン）はティロールとともにオーバーバイエルン、ルートヴィヒ 6 世とオットー 5 世は共有でマルク・ブランデンブルク、シュテファン 2 世はニーダーバイエルンのほぼ全土、ヴィルヘルム 1 世とアルブレヒト 1 世はシュトラウビング（バイエルン-シュトラウビング）周辺の地域とネーデルラントを手に入れた。これにより、1363年にオーバーバイエルンは、ニーダーバイエルンのシュテファン 2 世にわたった。しかし、かれは寡婦である公女マルガレーテがオーストリア公ルードルフ 4 世に譲渡していたティロールを、1369年にハーブスブルクに譲渡しなければならなかった。ブランデンブルクは1373年にカール 4 世に譲渡されなければならなかった。1392年にバイエルンは 3 回目の分割をされた（部分公領バイエルン-ミュンヘン、部分公領バイエルン-ランツフート、そして部分公領バイエルン-インゴルシュタット）。ヨハン（2 世）公はオーバーバイエルンの南西部分と、南部のノルトガウ（バイエルン-ミュンヘン）を手に入れた。フリートリヒ公はニーダーバイエルン（バイエルン-ランツフート）を、シュテファン（3 世）公は、ドナウ川上流河畔とアルペンフォアラント（バイエルン-インゴルシュタット）にある散在した土地シュトロイベジッツを手に入れた。2 回目の分割で、1349年から続いて生まれたシュトラウビング系の男系は、1425年に絶えた。1429年のプレスブルクの仲裁裁定後、1425年に急に皇帝からハーブスブルクに与えられたシュトラウビングの^{ラント}土地は、その半分が 2 人のミュンヘン公（バイエルン-ミュンヘン）にわたった。4 分の 1 ずつが、バイエルン-ランツフートとバイエルン-インゴルシュタットにわたった。1433年、ネーデルラントに対する支配権はブルグント公に譲渡されねばならなかった。1445ないし1447年に、ルートヴィヒ・デア・ブックリングを最後にバイエルン-インゴルシュタット系は絶えた。かれらの土地は、今やバイエ

ルンの3分の2を支配していたバイエルン-ランツフートのハインリヒ16世にわたった。またかれの子孫ルートヴィヒ・デア・ライヒェは1472年にインゴルシュタット大学を設立した。1450年にバイエルン-ランツフート公ルートヴィヒ9世はエルディングの契約の中で、ミュンヘンの従兄弟に遺産の内わずかを譲渡した。同時にバイエルン-ランツフートは、領地ハイデンハイム、領地ハイデック、領地ヴェムディング、領地ヴァイセンホルンを手に入れた。1485年に、バイエルン-ミュンヘンのアルブレヒト4世は、伯領アーベンスベルクを没収した。1487年から1492年まで、債務超過の帝国都市レーゲンスブルクは、自らをアルブレヒト4世の領邦君主権下においた。1503年12月1日、バイエルン-ランツフート系はゲオルク・デア・ライヒェを最後に、その男系が絶えた。1392年の分配契約と1450年のエルディングの契約に従って、バイエルン-ランツフート系の滅亡時にはバイエルン-ミュンヘンがその遺産を得るというものであったにもかかわらず、ゲオルクの娘エリーザベトが相続人に指名されていたので、ゲオルクの娘エリーザベトと結婚していたループレヒト・フォン・プファルツと、アルブレヒト4世・フォン・バイエルン-ミュンヘンとのあいだで相続争いが生じた。領土割譲の約束と引換えに、アルブレヒト4世はマキシミリアン王の支援を手に入れた。1505年6月30日のマキシミリアン王のケルンの仲裁裁定において、ランツフートの遺産は、ミュンヘンの地域に付け加えられ、その結果、バイエルンの統一は復元した。しかし、アルブレヒト4世は、ループレヒトの子供たちのために創り出された侯領「ユンゲン・プファルツ」(プファルツ-ノイブルク)の形成のために、フィヒテル山地とドナウ川上流とのあいだの分散した土地(ノイブルク、ヒルポルトシュタイン、ハイデック、ブルクレンゲンフェルト、ズルツバッハ)、ならびに他の土地を、皇帝に(クフシュタイン裁判所、ラッテンベルク裁判所、キッツビューヘル裁判所、ツィラータールとキルヒベルクとヴァイセンホルン)、帝国都市ニュルンベルクに(アルトドルフ、ヘルスブルック)、そしてヴェルテンベルクに(ハイデンハイム)1505年に譲渡しなければならなかった。1506年に、ラントの統一を確保した^{プリモゲンニターアゲゼツ}長男子相続制の法が発効された。このように強固になった領邦バイエルンは1516年に^{ランデスオルドゥング}領邦令を、1518年に^{レフォルミールテス・ラントレヒト}改革ラント法を、1520年に^{ゲリヒトスオルドゥング}裁判所令を手に入れた。また1616年にはマキシミリアン公(1597-1651年)によって新たにラント法を手に入れた。1623年にマキシミリアン公は選帝侯位、1607年にドーナウヴェルト、1616年にミンデルハイム、1628年にオーバープファルツを獲得した。マキシミリアン2世エマヌエルは、1691年にスペイン領ネーデルラントの総督になったが、1704年から1714年までバイエルンをオーストリアに失った。カール7世アルブレヒトは、1734年と1740年に領地ホーエンヴァルデック、領地ヴァルテンベルク、領地ズルツビュルク、領地ピールバウムを獲得し、そして1742年には帝冠を手に入れた。マキシミリアン3世ヨーゼフの下で、バイエルンでは啓蒙主義が開花した。イックシュタットとロリスの促しにより、1758年にかれはミュンヘンに科学アカデミーを創設した。同時に、完全に分裂していた国家行政はイックシュタットによって新たに再編され、またクライトマイアによりバイエルン法が編纂された(バイエルン刑法典1751年10月7日、バイエルン訴訟典、マキシミリアン・バイエルン民法典1756年1月2日)。1777年にバイエルンのヴィッテルスバッハ家は滅亡し、ヴィッテルスバッハ-プファルツ

の選帝諸侯（カール・テオドール）によって相続された、その結果－ プファルツ－ツヴァイブリュッケン（－ビルケンフェルト）は別として－ 1329年以降分割されていたヴィッテルスバッハ家の土地（プファルツ、ユーリヒ、ベルク、プファルツ－ノイブルク、プファルツ－ズルツバッハを含む）は、初めて再び統合された。1779年にバイエルンのインフィアテルはオーストリアに、1797年ないし1801年にライン川左岸の地域はフランスに取られた。嗣子のなかったカール・テオドールの死によって、プファルツ－ツヴァイブリュッケン－ビルケンフェルト系のマキシミリアン4世ヨーゼフは、支配権を獲得し、その結果、ヴィッテルスバッハ家の全土を統合した。その後、1806年以降王マキシミリアン1世となるマキシミリアン4世ヨーゼフ（1799-1825年）と、大臣であるマキシミリアン・ヨーゼフ・フォン・モンジュラ男爵（1799年-1817年）は、近代国家バイエルンを創設した。1801年に公領バイエルンは、帝国伯領ヴァライ、帝国伯領ハルス・バイ・パッサウ、帝国伯領ヒャーム、帝国伯領ホーエンシュヴァンガウ、同様に帝国保護領ドーナウヴェルト（ヴェルト）とともに、大きき590平方マイルで、住民88万人を包括していた。1803年にバイエルンはドイツ帝国代表者会議主要決議第2条によって、フランケン地方におけるライン川左岸の土地（プファルツ [ラインプファルツ]、プファルツ－ツヴァイブリュッケン、プファルツ－ジメルン、ユーリッヒ、プファルツ－ラウテルン、プファルツ－ヴェルデンツ、ベルゲン－オブ－ツォーム [ベルゲン－オブ－ツォーム]、ラーフェンシュタイン）の補償として、高司教区本部ヴェルツブルクと高司教区本部バンベルク、同様に帝国都市ローテンブルク、帝国都市ヴァイセンブルク、帝国都市ヴィンドウスハイム、帝国都市シュヴァインフルト、大修道院領ヴァルトダッセン、大修道院領エブラッハ、帝国村ゴッホスハイム、帝国村ゼンフェルト、同じく高司教区本部アイヒシュテットから役所管轄区域ザントゼー、役所管轄区域ヴェルンフェルス－シュバルト、役所管轄区域アーベンベルク、役所管轄区域アルベルク－オルンバウ、役所管轄区域ヴァールベルク（ヴァールンベルク）－ヘリーデン、シュヴァーベンでは高司教区本部アウクスブルク、修道院の一連（ケンプテン修道院、イルセー修道院、ヴェンゲン修道院、ゼフリンゲン修道院、エルヒンゲン修道院、ウーアスベルク修道院、ロッゲンブルク修道院、ヴェッテンハウゼン修道院、オットーボイエレン修道院、カイスハイム修道院、アウクスブルクにあるザンクト・ウルリヒ・ウント・アフラ修道院）、帝国都市ディンケルスビュール、帝国都市カウフボイレ、帝国都市ケンプテン、帝国都市メミンゲン、帝国都市ネルトリンゲン、帝国都市ウルム、帝国都市ボプフィンゲン、帝国都市ブーフホルン、帝国都市ヴァンゲン、帝国都市ロイトキルヒ、同じく特にアルトバイエルンのフライジング高司教区本部とイン川とイルツ川のドイツ領側のパッサウ高司教区本部を手に入れた。しかし、ライン川右岸のプファルツはバーデンにわたった。1805年にバイエルンはブルンとプレスブルクとの協定で帝国都市アウクスブルク、辺境伯領ブルガウ、オーバーシュヴァーベンのハーブスブルク家領、フォアアルベルク、パッサウ、アイヒシュテット、ブリクセンを含むティロール、トリエント（交換でヴェルツブルク）を得た。1806年1月1日にバイエルンは王国に上昇した。1806年7月12日にライン同盟に加入して以降、バイエルン王国は、アンスバッハ（ベルクと交換で）と多くの小さな領地、ニュルンベルク帝国都市、同様にドイツ騎士団の土地を獲得した。

1809年ないし1810年に、バイエルン王国はオーストリアの経費で、インフィアテルとハウスルックフィアテル、ザルツブルクとベルヒテスガーデン、それ以外にもパイロイトとレーゲンスブルクを手に入れたが、南ティロールをイタリアに、またマインフランケンの一部をヴェルツブルク大公に譲渡しなければならなかった。しかし、ヴェルテンベルクとの契約では西部においてイラー川が境界となり、そしてウルムがヴェルテンベルクにわたった。1815年ないし1816年（1816年4月14日）にバイエルンは、ティロール、フォアアルルベルク、ザルツブルク、インフィアテルとハウスルックフィアテルをオーストリアに返還しなければならなかったが、しかし、反面、ヴェルツブルクからアシャッフエンブルクまでのマイン地域を、それ以外にもライン川左岸のプファルツを返還してもらった。1805年ないしは1806年に手に入れたアウサーフェルンのフィルスは、1816年にマルクトレトヴィッツとの交換により、オーストリアに与えられた。いくつかの残った土地は、当時的大臣モンジュラの下、厳格な行政機構統一のために統合された。その行政機構統一は、1815年6月10日に3番に大きい国家として不本意ながらドイツ同盟に加入し、1808年に法規ないしは1818年5月26日に憲法、1813年に統一的近代的刑法（刑事法典）を手に入れた、そしてバンベルク大学、アルトドルフ大学、ディリンゲン大学、インスブルック大学、ザルツブルク大学を廃止した。唯一の中心は、1800年にインゴルシュタットからランツフートに移されていた大学を、1826年に獲得したミュンヘンであった。1837年にバイエルンは新たに七つの行政区域（シュヴァーベン、オーバーバイエルン、ニーダーバイエルン、オーバープファルツ、オーバーフランケン、ミッテルフランケン、ウンターフランケン）に編成された。それらに、プファルツが第八番目の行政区域として編入された。1866年12月24日のプロイセン法典によって、それまでのバイエルン管区庁ゲルスフェルト（昔の領地ゲルスフェルトと、かつてのフルダの役所管轄区域ヴァイヘルス、役所管轄区域ビーバーシュタイン、そして上級役所管轄区域フルダの諸村落^{オルテン}から構成されていた）は、また1815年大公領フランクフルトからバイエルンにわたっていた村落を含むそれまでのバイエルンのラント裁判所管区域オルプは、プロイセンと合併された。1870年11月20日ないし23日に、バイエルンは、南ドイツ最後の国家としてヴェルサイユにおいてドイツ帝国への参加についての条約を結んだ。その際、留保権^{ラザヴァートレヒト}としての1871年の憲法に従って、独自の外交、郵便、鉄道、ビール醸造と火酒醸造税、同様に制限されながらも国防権を持ち続けた。1918年11月に、ドイツ独立社会民主党の指導者アイスナーは、バイエルンは共和国であることを宣言した。王ルートヴィヒ3世は国外へ出たが、退位については拒否した。それにもかかわらず、バイエルン王国は共和国（1919年8月12日ないし19日の憲法）に変化した。新憲法に基づいて、バイエルンは、ドイツ帝国内のほとんど全ての特権を失った。バイエルンのプファルツの一部はザール地方にきた。1920年7月1日にザクセン-コーブルクはバイエルンと統合した。1933年3月9日に、ヘルト首相（バイエルン国民党）の行政は、国家社会主義者たちによって排除された。1934年にバイエルンは主権を失い、帝国の一地域^{ゲビート}になった。1945年にバイエルンはアメリカ占領地区になったが、リンダウとプファルツはフランス占領地区に割り当てられた。それとは反対に、以前のテューリングンのオストハイムはバイエルンにきた。プファルツはバイエルンから分離され、1946年に

ラインラント-プファルツ州に編入された。リンダウは1956年にバイエルンに戻ってきた。1946年12月1日にバイエルンは新憲法を得た。1949年にバイエルンのラント議会は、バイエルンの特権が不十分であるという理由でドイツ連邦共和国憲法（基本法）を拒否した。しかしバイエルンはドイツ連邦共和国の一州となった。参照プファルツ、ヴィッテルスバッハ。